

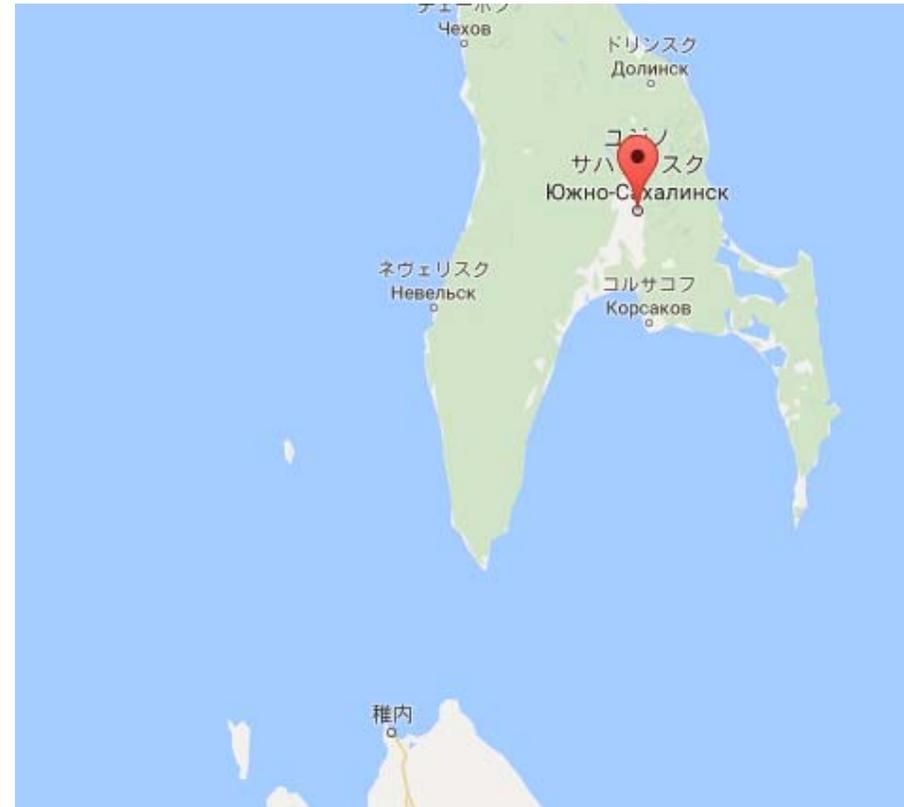
(ロシア ユジノサハリンスク市視察)

# 南信州版 企業ダーチャによる 地域振興

豊丘村長 下平喜隆

# サハリンの概要

- サハリン州 約48万人
- ユジノサハリンスク市 約20万人
- サハリン州の在住日本人は70人
  
- 主たる産業は漁業、林業、石油、天然ガス  
昨今は、温室による農業、畜産、酪農分野も伸ばそうとしている
  
- スーパーなどの生鮮品は中国からの輸入が主

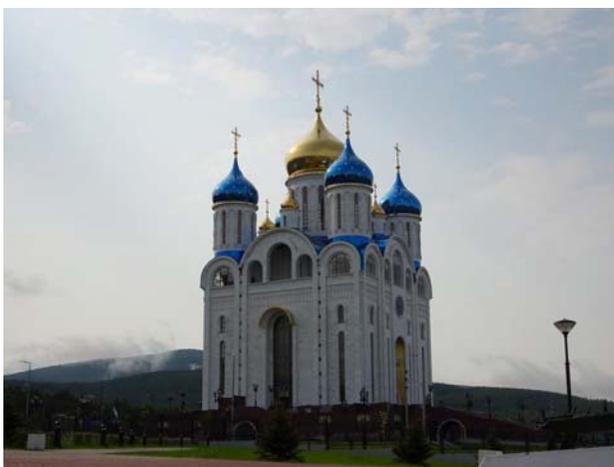


- サハリンの貿易総額の半分が日本  
ロシアの日本貿易の3割を占めている
  
- サハリンから日本への渡航は増えているが、日本からサハリンへは増えていない。

# ユジノサハリンスク (豊原) 市街地の様子



# 戦勝記念公園



# 高台から望む市街地



スキー場は夏場は展望台として活用

# ショッピングモール



# お隣コルサコフ(大泊)市



王子製紙工場跡



なんて書いてあるでしょうか？

## 21時の日没とレーニン像



市街地から車で1時間で郊外ダーチャへ



# ダーチャとは何か①

- ロシアで古くから普及している「郊外型住宅付き畑」。
- 土地は国から貸与されている（一家約1 a）1960年代～
- 平日は都市で働き週末や休日はダーチャで過ごす  
※週末はダーチャ渋滞が発生するほど（都市から車で30分から1時間程度）
- 夏休みなどは長期で滞在する  
ロシアの統計(1997年)によるとロシア全体では 2200万世帯（約40%）がダーチャを所有しており、その総面積はおよそ182 万ヘクタールである。  
これは、北陸・東海・近畿・中国・四国・九州・沖縄の農地面積合計と同じ。  
ロシアの作物全体において、ジャガイモの90%、果物の77%、野菜の73%を占める。  
※ロシア世帯数約5700万世帯  
※日本の耕作面積は450万ヘクタール



資料写真



## ダーチャとは何か②

- モスクワ住民の約8割が所有していると言われている
  - ※インフレや凶作、有事の際にロシアの食料を支えてきた
  - ※1990年代のソビエト崩壊後の経済危機から国民を救い注目を集めた
- 無農薬/有機肥料での生産（自分で食べる物だから）
- 食料生産としての機能の他、子育ての場(孫も)/コミュニケーションの場(家族・友人)  
/リフレッシュの場でもありライフスタイルとして定着している
- フードセキュリティやヒューマンセキュリティとしての価値
- プーチン時代になり食料事情は（価格/量）好転したがダーチャは増加傾向



資料写真

# ダーチャ外観



# ダーチャ室内



床は水平でないところも…

# 水まわり



上下水道はなく、雨水を利用。

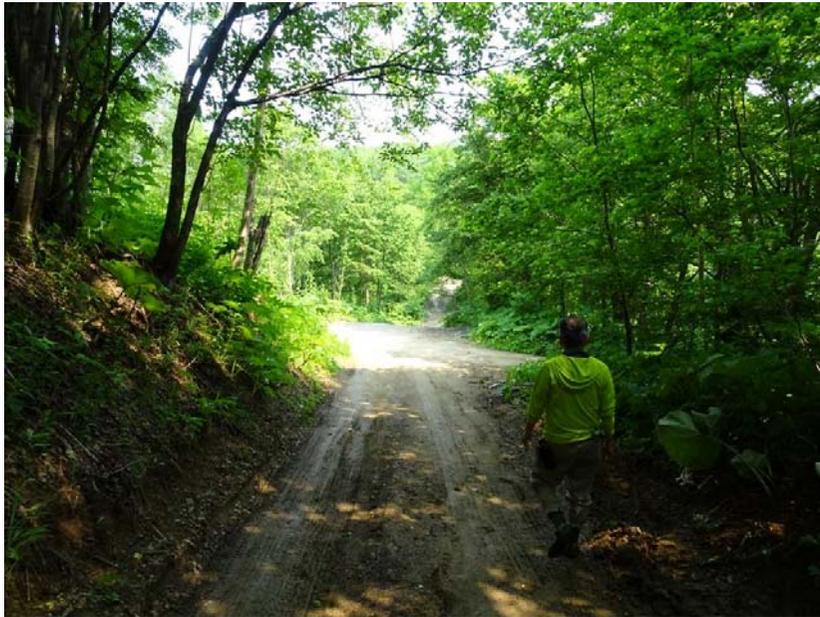
# トイレ



# 菜園



# 丘を越えるとお隣のダーチャが点在



# バーニャ (サウナ)



# ダーチャでの暮らし～ウラジミールさんの場合



- 元船長で今はリタイア。
- 夏の間はダーチャで生活し、雪が降りはじめたら町へ戻る。
- お孫さんもダーチャ大好き！

※20～30歳代は仕事や学生生活を重視しているが、子どもの頃に祖父母や両親とのダーチャ経験を持っている。

**「食べ物の作り方も、育て方も、自然の大切さ、命の大切さもダーチャで学んだ」**

# おもてなし



# 使う人によってあり方は様々



よりインフラの整ったダーチャ。建築は所有者のセルフビルド。  
プールを作ることも検討しているとのこと。

## その他のダーチャ



ユジノサハリンスク展望台（市街地近郊）へのロープウェイ下にある元政府官僚ダーチャ



お隣、コルサコフ市の海岸の丘にあるダーチャ群

# 放棄ダーチャ



放棄ダーチャ解消のため、複数所有を認め始めている。

# ダーチャまとめ

- **与えられるのは土地だけで、建物や圃場は自分達で整備**
  - ⇒所有者それぞれに多様な使い方
  - インフラはすべて整っているというわけではない
  - 「不便を楽しむ余裕」
- **食料自給率を上げ、家計にも貢献**
  - ⇒スーパーでの生鮮品は中国産が主
  - 食の安全の観点からダーチャが見直されている
- **誰でも持つことが可能で、庶民の別荘としての機能も持つ**
  - ⇒ライフスタイルの一部
  - 生活に対する余裕、幸福感を与えている

(参考) クラインガルテン

- 有料で農地と小屋を賃貸 (25~30年)
- 余暇の楽しみの創出、都市の緑化対策
- 同じく食料自給率に貢献

# 南信州での可能性

## ダーチャの多様性

- ほったて小屋 ↔ 別荘（インフラ全般）
- 市街地近郊 ↔ 中山間地
- 週末に滞在 ↔ 中長期の滞在
- 所有者ならではの愛着、使い方、楽しみ方

## 様々な課題解決のきっかけに

- 耕作放棄地の解消
- 空き家の活用
- 交流人口の増による農村活性化
- 食料自給率の向上
- 現代社会特有の精神疾患への処方箋
- …etc.

## 企業単位で南信州流にアレンジして導入

- 社会貢献（CSR、CSV）
- 社員の成長の場（コミュニケーション、社会課題認識）
- 従業員の福利厚生（メンタルヘルス対策）



**14市町村の個性を活かした  
南信州版企業ダーチャ**



リニアが開業し時間距離が劇的に短くなったとき…

**南信州のダーチャを都市住民が活用 ⇒ 交流から定住へ**

# 終わりに

## ロシア雑感

- 国境を隣接する国どうしはそれぞれに長い歴史の間に、様々な問題を抱えてきた。
- 時々政府は、国民の人気を得るために都合の良い史実の解釈をする。
- 現実的にもあまりに多様な事実が混在するため、総合的な真実は確定が難しい。
- 自分だけが、我が国だけが正しいという考えが戦争を呼び込む。
- 結果としての罪のない市民が戦争の犠牲になる。
- かつて田中角栄氏は、今は戦争の悲惨な記憶をとどめている人たちが沢山いるから戦争にはならない、と発言された。
- 今、東京に核爆弾が落ちれば100万人が死亡し、日本の経済は壊滅状態になる可能性も。
- 平和へのオペレーションは様々である。護憲、改憲の入り口論や、保守、革新の古ぼけた対立を越えて、今こそ平和のための議論を進めよう。



焼き場の順番を待つ少年  
1945年8月長崎  
撮影 ジョー・オダネル

リニアと三遠南信道が紡ぎ出す、伊那谷ならではの  
世界に開かれた地域の多様性創出と発展



日本人 8人、ロシア人 7人、韓国人 2人、中国人 1人

ご清聴ありがとうございました